

8：日常における指導及び個別指導①（小学校）

取組内容	テーマ	歯みがき・フッ化物洗口の感染防止対策の工夫		
	取組に至った経緯	<p>歯みがき・フッ化物洗口は、学校歯科医指導のもとマニュアルを作成し、休校明けから実施。洗口場の混雑回避のため、各学年をA・Bに分け、Aが歯みがき時に、Bは給食片付け時間としている。歯みがき方法は、前向き給食の席で、口にタオルをあて、ナフキンを机に敷いて実施。うがい方法など、感染防止のための約束について資料を作成し、学級指導を実施。校内に掲示物を掲示したり、保健だよりやホームページを活用したりするなど、保護者や地域の共通理解も図った。</p>		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果と課題	成果	その都度マニュアルを改善することで、校内の感染状況に左右されず、歯みがき・フッ化物洗口を継続できている。その結果、歯科健診におけるう歯数は年々減少しており、治療率も悪化していない。		
	課題等	生活の中で慣れが生じ、感染防止に対する危機感が薄れてきた。通常の学校生活を意識しながら、感染対策を徹底する意識を高めたり、維持したりする手立てが更に必要だと感じる。		

【補足資料】 8：日常における指導及び個別指導①（小学校）

「歯みがき・フッ化物洗口の感染防止対策の工夫」

1 「新型コロナウイルス感染拡大防止のための校内体制」

学校歯科医の指導、県や自治体歯科医師会の通知等を参考に、本校の実態に応じた独自の「歯みがき・フッ化物洗口の方法」を実施している。

2 **歯みがきについて**（マニュアルから抜粋）

(1) 実施方法

- ①毎日、給食小袋に、箸、歯ブラシ、コップ、タオル、ナフキン、マスクを入れて持参する。
- ②「歯みがきミュージック」に合わせて歯をみがく。（※学校歯科医要望）
※ 学級の実態、時間の関係で歯みがきが実施できない場合は「うがい」をする。
- ③洗口場の使用について
12時45分～給食片づけの時間と12時55分～歯みがきの時間を交互にする。（学年の実態に応じてA・Bグループごとに相談して実施する）
- ④歯みがきの方法について
歯みがきは、ナフキンを机に敷き、タオルを口の前にあて、前を向いて歯をみがく。
うがいは、低い位置から静かに吐き出す。
- ⑤12時55分からの歯みがきグループは、各クラスに配布したCDを活用する。
- ⑥歯みがきの時間に、自席で静かに歯をみがけている様子が見られる（全員が確実にできる）ときに限り、その時間を使って、教員が牛乳パックを洗う作業ができるようにする。
また、前半歯みがきのグループに関しては、牛乳パックの回収方法を工夫する。
例えば、担任がかごを持って回収し、
回収できなかった児童（遅い児童）は自分で洗う…等

3 **フッ化物洗口について**（マニュアルから抜粋）

フッ化物洗口のA・Bの分け方について
（時間をずらしての実施）

- ①学年内で相談し、A・Bグループごとに交互に洗口場を使用する。
- ②コップの水をすてる時は、低い位置から静かに捨てる。



8：日常における指導及び個別指導②（小学校）

取組内容	テーマ	廊下でもソーシャルディスタンス		
	取組に至った経緯	休校になった時、校内でできる感染症対策を考え、廊下歩行の時やトイレや手洗いで並ぶ時の目印があれば、ソーシャルディスタンスを取りやすいと思い、全ての廊下に赤と青の目印を貼った。		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果	成果	移動教室の時やトイレ、手洗いなど廊下に並ぶ際、目印があると低学年でも距離をとることができた。色分けしたことによって、「青に並んで」など、分かりやすかった。		

【補足資料】 8：日常における指導及び個別指導②（小学校）

「廊下でもソーシャルディスタンス」

トイレに並ぶ低学年



全ての廊下に 1.2m 間隔でテープを貼った

教室側が青、窓側が赤



給食前の手洗い



8 : 日常における指導及び個別指導③（小学校）

取組内容	テーマ	歯みがき指導（給食後の歯みがき・フッ化物洗口）		
	取組に至った経緯	口腔内の清潔は、新型コロナウイルス感染防止対策にも有効だと学校歯科医から指導をいただいた。学校歯科医の指導の下、保護者、教職員の理解と協力を得て、学校給食再開に合わせ、給食後の歯みがき・週1回フッ化物洗口を実施した。（令和3年10月現在継続中）		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果と課題	成果	「食べたらみがく」の習慣が継続できている。令和3年度のDMFTは、0.02であり、昨年度と同様の数値を維持できている。 保護者の理解も得られ、給食後の歯みがき、週一回フッ化物洗口を続けることができている。		
	課題等	保護者の理解・協力を得ながら、かつ感染予防対策をしながら、歯と口の健康を保つための歯みがき指導を継続していきたい。		

【補足資料】 8：日常における指導及び個別指導③（小学校）

「歯みがき・フッ化物洗口・歯みがきエチケット」

感染予防対策

給食後の歯みがきについて

- ・歯ブラシは給食袋に入れて毎日持たせてください。
- ・クラスごと、歯ブラシケースにて保管していましたが、感染予防の観点から変更します。

歯ぶらしを清潔に保つために

- ◎歯ぶらしに食べかすが残っていないように洗ってください。
- ◎歯ブラシを乾燥させたものを持たせてください。

2本用意すると、乾燥ができ清潔が保たれます。

給食袋

- ・歯ブラシ
- ・コップ
- ・ランチョンマット（ナフキン）



- ・クラスの歯ブラシケースの保管は廃止。
- ・歯ブラシは毎日持参。
- ・2本用意し清潔で乾いた歯ブラシ持参する。

* 保健日よりにて協力依頼

ランチョンマットを敷く（忘れた場合は裏紙） 歯みがき、フッ化物洗口を自席で行う。



口元を片手で隠し、口を閉じて行う。



フッ化物洗口開始当初から、歯の裏側にも行き届かせるために頭を下げてうがいをしている。飛沫も飛びにくい。



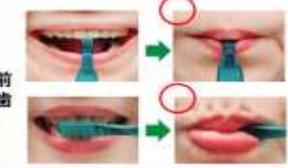
うがい：姿勢を低くし、静かに。



蛇口は止めない。最後の子が蛇口を閉め、蛇口と手指をアルコール消毒。（教員が見届ける）

☆歯みがき エチケット☆

くちびるを閉じましょう



前歯

くちびるを閉じましょう



奥歯

1 手洗い場が混まないようにしよう。



2 歯みがき中のおしゃべりはやめよう。



3 歯みがき中は口を閉じて。前歯のうらは、口を手でおおってみがこう。



4 フクブクうがいは少ない水で1-2回。はきだすときは低いところでゆつくりと。



5 歯ブラシはよく洗って水を切ってかわかしてからしまおう



引用 日本学校歯科医師会ホームページより

クラス掲示・家庭配付

8：日常における指導及び個別指導④（中学校）

取組内容	テーマ	手指消毒と換気 部活動時の消毒 日常の体温チェックの徹底
	取組に至った経緯	<p>感染拡大を防止する為にアルコールでの手指消毒と校舎内に入る前の体温チェックが必要と考え、毎日正門前にて手指消毒を行い、校舎内に入る前に昇降口で体温記録表のチェックを行う。</p> <p>体調不良や体温が高い場合は保護者に連絡し、校舎内に入る前に早退とした（土・日・祝の部活動時も同様）</p>
	実施時期	年間
成果と課題	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・手指消毒と体温チェックが習慣づいてきている。 ・保健委員の声かけもあり、手洗いの習慣もついてきている。
	課題等	<p>習慣づいてきているとはいえ、教員の声かけがないとまだまだできない場面もあるので、さらに声かけをし自ら進んでできるようにする。</p>

8：日常における指導及び個別指導⑤（高等学校）

取組内容	テーマ	誰にでも理解できる掲示物 ～ユニバーサルデザインを意識した掲示物の作成～		
	取組に至った経緯	コロナ前から感じていたことだが、話をしても音からの認識が難しかったり、文字からの認識が難しかったりする生徒が多く、どのようにしたら意思伝達が出来るか試行錯誤の結果、絵（イラスト）を使って文字を少なくすることにした。健康診断実施時などに効果を感じているため、コロナ対策にも活用した。		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果と課題	成果	声を出して指示しなくてもイラストを見せるだけで納得し行動できることが多くなった。		
	課題等	最近はマンネリ化したり、簡単なイラストだけでは済まなかったりするようなことがあり、そういった場合は文字が多くなってしまう。		

【補足資料】 8：日常における指導及び個別指導⑤（高等学校）

「誰でもわかる掲示物」

1 学食の注意事項の掲示物



(出典：フリーのイラストルーム)

2 教室掲示（最低限守ってほしいこと）



(出典：「健」2020年11月号)

3 健康診断などで

しゃべらないでね！



お静かに

図書館のカエル司書さんの登場です

8 : 日常における指導及び個別指導⑥（高等学校）

取組内容	テーマ	「保健だより」を通した持続可能な感染症対策の発信		
	取組に至った経緯	長い期間の感染防止対策は、気の緩みや疲労感、「やる意味」「続ける意味」に疑念が生じたりするものである。あふれる不確かな情報や他の意見に惑わされず、毎日行っている感染症対策を継続することの大切さを楽しく伝えることで、生徒の気持ちをリセットし、再び「変わらずコツコツ」を元気に続けてもらうため、定期的に発行する保健だよりを活用した。		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果と課題	成果	「またか…」ではなく「ですよね！！」と再確認、「ふ～ん」ではなく「そうなのか！」と知識を得ることを繰り返しながら、生徒が正しい感染防止対策をコツコツ続けてくれている。		
	課題等	わかってほしい生徒に確実に伝えられるツールではない。また、内容についての理解、共感、そこからの行動変容は生徒自身に委ねられる。		

おせらい

新型コロナウイルス感染症 感染リスクが高まる

『5つの場面』

① 大人の話ごちや、飲酒を伴う懇親会等	② 大人数や長時間に及ぶ飲食	③ マスクなしの会話	④ 来客、空間の共同生活	⑤ 居場所の切り替わり
---------------------	----------------	------------	--------------	-------------

↓ これをふまえて

春休みの感染対策

みんなが気をこけて!!

『3つの場面』

各自の朝の検温 体調チェックは必須!

1 複数人での活動	2 複数人での飲食
3 活動の切り替わり	基本的な感染対策を続けましょう!!

運動等、マスクをきる場面あるときは 距離や発声 要注意!!

マスクをはずすと 感染リスク高!!

食べる時 話す時

基本的な感染対策: 密閉 密集 密接

- マスク着用
- 3密を避ける
- 手洗いや消毒

活動の切り替わり: 着替と移動など 会話を控えるかマスク着用

あなどれない!!
新型コロナウイルス感染症
『無症状』『軽症』

様々な面でもまだ解明されていない新型コロナウイルス。その怖さのひとつに「無症状」「軽症」と判断されたひとにも襲いかかる症状があります。

① 病状急変(急死)	② 後遺症
2時間前までスマホいふつうに話していたのに 歩いたのに 明日には療養期間を終えるはずだったのに	息切れ 息苦しい 嗅覚・味覚障害
こんなニュースをよく見ましたよわ。	脱毛 強いだるさ 体の痛み
通常、肺炎なら苦しむ状態になるのに(見た目)、新型コロナウイルス感染症の肺炎では全くそれを感じさせないことがあります。	食欲低下 気分の落ち込み
<ul style="list-style-type: none"> 苦しくない 普通に会話できる いつも通りに歩ける 元気に、10日オキシメ-9- 低値! 93%	「無症状」「軽症」の場合、PCR検査(+)となつたら約10日で通常生活に戻るようになります。このような症状をかかえながら日常生活に復帰しなければならぬのは本当に辛いことですよわ。今は...とにかく感染予防をねいねい!!

原因不明な病状を繰り返す原因も、その病状を緩和する治療を行うことのみ出展するのが現状です。

実は致死的に低い酸素レベルであるにもかかわらず意識を失う前までこのような状態... ハッピー・ハイオキシア (幸せな低酸素症) と言わなければなりません。

8：日常における指導及び個別指導⑦（特別支援学校）

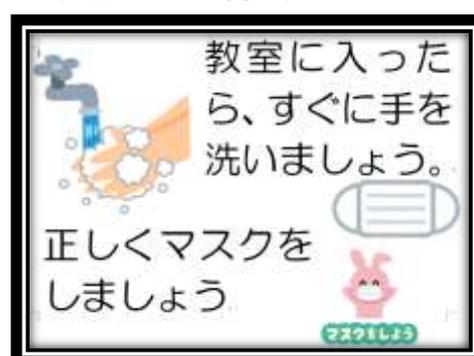
取組内容	テーマ	「新型コロナウイルス感染症をやっつけよう週間」の実施		
	取組に至った経緯	<p>例年(前任校では)、6月に全校の取組として「手洗い励行週間」を実施している。昨年度(令和2年度)は、その時期が臨時休校を経て、分散登校時と重なった。これから学校生活において感染症対策が必要と考え、感染症対策の意識向上のため「感染症をやっつけよう強化週間」と名称を変更し、内容を「学校における新しい生活様式」を参考にした感染症対策の取組を行うことにした。</p> <p>強化週間としたのは、日々感染症対策は必要であるが、そのための取組を特に意識するために「強化」とつけた。</p>		
	実施時期	令和2年6月・10月	補足資料	有
成果と課題	成果	<p>手洗いの励行、マスクの正しい着用、距離の保持などについて取組を行った。手洗いは、各手洗い場に「手の洗い方」の掲示物を掲示するとともに、給食時に、高等部保健委員の協力を得て、手洗いの歌を放送した。マスクの着用は、正しいマスクの着用について掲示物を作成し、教室に掲示した。距離の保持は、具体的に距離を理解できるように、2mと1mのスズランテープを作り、教室に掲示した。それぞれの内容について各学級に保健教育の実施を促した。</p> <p>また、学級ごとに取組内容のポスターを作成し、廊下に掲示した。</p>		
	課題等	<p>感染症対策のため、急遽、全校の取組内容を変更した。分掌での理解を経て、全校教職員の意識が向上し、児童生徒はもとより学校全体で感染症対策を徹底することができた。</p>		

【補足資料】8：日常における指導及び個別指導⑦（特別支援学校）

1 「感染症をやっつけよう週間」の表示



2 教室の入口の掲示物



3 スズランテープを使った距離の掲示



4 生徒が描いたポスター

